INDEX
- 第９回中央委員会・落合会長挨拶… 1
- 中央委員会報告・議案ほか…… 2
- 中央委員会議案ほか…… 3
- 家庭に眠る小さなお宝キャンペーン… 4

UIゼンセン新聞

昭和24年11月14日第三種郵便物認可
2011年(平成23年) 2月3日(木) 2556-257号
UIゼンセン同盟機関紙
毎月第１・第３木曜日発行　定価１部50円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行所　東京都千代田区九段南４―８―16
UIゼンセン同盟
電話 03―3288―3566 FAX 03―3288―3727
ホームページURL http://www.uizensen.or.jp
発行人　松浦昭彦　　編集人　秋元かおる

第９回中央委員会の冒頭、壇上から「2011年、我々は〝坂の上の雲〟を目ざして、運動課題に焦点を当て果敢に歩を進めていこう」と力強く訴える落合清四会長

UIゼンセン同盟第9回中央委員会を開催

〝坂の上の雲〟を目指そう

2011統一賃闘 あるべき賃金水準へ

UIゼンセン同盟は1月27日、東京都・大田区民ホール「アプリコ」で第9回中央委員会を開催し、中央委員、役員など800名が出席した。①2011労働条件闘争方針②2011～2012年度年間総実労働時間短縮方針③2011年期末一時金闘争方針④2011～2012年度退職金改定闘争方針⑤特別中央執行委員の補充⑥第17回統一地方選挙必勝決議および緊急提案「AOKIグループユニオン支援決議」を可決決定した。（2、3面に関連記事）

統一賃闘の意義

デフレ不況脱却の方策はデフレスパイラル（連鎖的な悪循環）を止め、上に向かっての逆スパイラルを作動させることであることは今や誰でも分かっています。にもかかわらず、ここ数年「わが社の事情は厳しい環境にあり、賃上げは無理」といった声の連鎖がつくり出されてきました。この合成の誤謬の繰り返しを止めることができなかったことに深刻なデフレ不況の実態があります。

日本経済団体連合会（日本経団連）は、本年も「経営労働政策委員会報告」で総額人件費を管理する視点が重要であるとして新たな改善原資の必要性を否定することは労働組合の原点である〝団結と連帯〟を弱めることにもなります。

今次統一賃上げ闘争は、全加盟組合が〝あるべき賃金水準〟を求めての闘いです。そして、厳しい経営状況の組合でも組合員のために何らかの賃金アップができたという実績をつくりあげることにあります。そして、同業他労組に対して良い影響を及ぼすことができた、という〝連帯〟の実感を味わうために、各組合が本腰を入れて交渉に臨むことが最も重要な視点です。

短時間組合員等の時間給交渉など処遇改善については社会的な意義が大きく、日本の短時間労働者全体への波及を促す取り組みにしなければなりません。

ワーク・ライフ・バランスの実現

日本の労働者の平均総実労働時間は低下傾向にあります。しかし、これは短時間労働者比率の上昇によるものであり、長時間労働者は依然として多く、労働時間の長短二極化が指摘されています。

労働時間の改善は働き方の改善でもありますし、作業の改善でもあります。ワークルールづくりと職場作業改善運動を展開していくことこそが生産性向上につながり、仕事と生活の調和をはかることができます。

今回、「EUの労働時間指令」を参考にして休息時間の確保のための「インターバル規制制度」（勤務終了時から翌勤務開始時までは11時間以上の休息を義務づけるなど）の創設を提起していました。

また、仕事と家庭の両立については、昨年6月に政労使で新たに合意した「仕事と生活の調和のための行動指針」で2020年までに男性の育児休業取得率を1・23%から13%に引き上げることなどが数値目標で定められました。目標の達成には改正育児・介護休業法を職場に定着させることが大切です。

また雇用の面では、65歳までの雇用確保の取り組みが喫緊の課題です。「改正高年齢者雇用安定法」による60歳以降の雇用確保措置が事業主に義務づけられているにもかかわらず、雇用確保の措置が曖昧な基準となっているところが散見されます。

さらに、老齢厚生年金の報酬比例部分の支給開始年齢の段階的な引き上げが目前に迫っています（2013年度から開始）。雇用と年金の接続は大前提です。積極的に取り組んでいきましょう。

組織の強化、AOKI民主化闘争

2005年から取り組んでいる全組合対象の「目標達成運動」は一歩一歩着実に成果をあげています。組合員の生活実感をそのまま運動に結びつける活動目標を組み立て、目に見える活動を展開していきましょう。

さて、我々の仲間であるAOKIグループユニオンは現在、会社による労働組合つぶしに遭っています。昨年6月に1640名だった組合員が10月時点で225名と激減しました。その後、再加入活動で100名以上の組合員が復帰しましたが、原状復帰にはまだ時間がかかります。

本民主化闘争は単なる不当労働行為事件ではありません。独裁的なオーナー経営者による資本と経営を私物化したうえでの組織的な労働組合つぶしです。今後、闘いの陣容を全国に広げ、民主化大闘争を組み立てることも視野に置いて取り組みます。皆さんの絶大な支援、協力をお願いします。

組織拡大のとき

日本全体の組織率は18・5%と一進一退を続けています。現代は〝不安の時代〟であり、とりわけ雇用不安の社会です。そして多くの人がつながりを失って孤立しています。

UIゼンセン同盟は〝つながり〟を重視する自助、共助のミニ社会です。まさに今、新たな仲間を求める組織拡大のチャンス到来です。産業・業種政策を推し進めるためにも組織拡大は重要です。組織拡大に全力を傾注していきます。

UIZ共済に本腰を入れよう

UIゼンセン同盟共済は着実に拡大していますが、〝日本一の共済〟と専門家から言われている割には拡大のテンポが遅いと言わざるを得ません。共済活動は組合員自らの自助と共助のための活動です。共済活動は信頼される組合役員が推進することによって加入者も拡大し、組合員の満足も得られ、組合への帰属意識も高まっていきます。全組合員の家庭まで浸透させましょう。

統一地方選の勝利目指して

UIゼンセン同盟は今春の統一地方選挙で70名の組織内・準組織内の候補者を擁立し、現在必勝へ向け懸命の活動を展開しています。地方議員は地域運動の充実強化に欠かすことができません。

合わせて我々は2013年夏を視野に置いて、今年から水面下の活動を起こしていかなければなりません。機関決定はまだですが、川合孝典組織内参議院議員の二期目の挑戦です。そのためにはリーダーの養成と拡大が必要です。着実に取り組んでいきましょう。

統一地方選挙に勝利しよう

落合清四会長挨拶（要旨）

壇

報告　強い組織へ

生活者の視点第一に

「組織の見直し」各級で討議へ

一般報告

大会以降の主要な活動を報告し、今後の決意を語る松浦昭彦書記長

第9回大会以降の活動について、松浦昭彦書記長が報告した。書記長は、2011労働条件闘争方針の論議や統一地方選挙へ向けた体制づくりなど本中央委員会に議案として上程した以外の主な活動について述べた。一般報告は質問・意見なく満場一致で承認された。松浦書記長は、「生活者の視点に立った運動」「交渉力の向上」「UIゼンセン同盟組織の見直し」に重点を置きながら着実に運動を進めつつあると述べ、具体的に分野別の活動報告を行った。

まず、組織強化のための「目標達成運動」は、第3回エントリーが完了し、集約結果の報告書を作成したことを報告。「運動の目的・意義を再認識して、全組合が改善項目に取り組んでほしい」と訴えた。

政策関係では、まず政策・制度要求について、「政権交代後、雇用や労働にかかわる部分では、自民党政権下より大きく前進した」と評価し、「きちっと組合員に伝えなければならない」と述べた。また、政府が進めようとしている社会保障制度改革と負担のあり方については、労働組合としても議論していきたいとした。さらに、昨秋の大会で確認した「繊維」「流通」「ホテル・レジャー」の3つの産業政策については、業界団体、組織内議員を交えて現実化していくと述べた。

2012年の第11回大会へ向けて進めている「UIゼンセン同盟組織の見直し」については、「組織機構」「運動」「中期ビジョン改定」の3小委員会で具体的な論議を開始したことを報告。「今後、討議素材を提示し、各機関で討議を進めてもらう」と述べた。討議にあたっては、昨年の大会で確認した組織・運動評価特別委員会の呼びかけた「中間報告」がベースになるため、再確認を呼びかけた。

会計・監査報告を承認

山河氏

中島氏

第9期上半期会計報告について予算通り執行されている旨の報告が行われた。

続いて、会計監査報告は中島隆会計監査（ダイエー）が行い、会計処理が適正であることを報告した。

会計報告及び会計監査報告は質問・意見なく満場一致で承認された。

新しい仲間達

（2011年１月27日・第５回中執確認）

＜新加盟組合＞

▷化労研　第一三共グループ労連　アスビオファーマ労働組合（化学部会、兵庫）　105名

＜既存組合の企業内拡大＞

▷モリキユニオン（流通・長野）43名

▷日本ソーイング北海道労働組合（地方・北海道）69名

▷東京・銀座ファッションユニオン（地方・岩手）89名

▷日本ソーイング福岡工場労働組合（地方・福岡）60名

○第５回中執での組織現勢＝1,087,358名

第1号議案　2011労働条件闘争方針について

社会水準目指して闘おう

統一賃闘、時短、一時金、退職金改定へ

6議案決定

議案

第1号議案「2011労働条件闘争方針」は松浦昭彦書記長が提案し、1点の意見を付して満場一致で可決決定した。

松浦書記長は、今期の重点方針「生活者の視点」に立った運動の分配として1%程度の賃金引き上げを目指し、要求基準を①到達水準を下回る組合で賃金制度により賃金体系が維持されているところは、賃金体系維持分を確保した上で格差是正を含め労働者への分配として1%程度の賃金引き上げを目指し、要求基準を①到達水準を下回る組合で賃金制度により賃金体系が維持されているところは、賃金体系維持分を確保した上で格差是正をはかっていこうと訴えた。

要求基準

具体的には、格差是正社員と同一の方法で決定することを原則、タイプBは正社員との均等・均衡を考慮し、昇格・昇給分も含め40円を目安、タイプCは20円を目安とするとした。

採決の挙手を行い提案したすべての議案を満場一致で決定した中央委員の皆さん

総合的な労働条件

総合的な労働条件の改善については、各組合の実態に応じて取り組むために9点の内容を示し、本年度内の解決を目指すとし、とくに65歳までの雇用確保、障がい者雇用の促進などを強調した。

交渉力の強化へ向けて、要求案の策定に際しては統一闘争のもとで、部会・都道府県支部と連携して取り組む。交渉に際しては、事前にスト権を確立するとともに交渉権限の委任を受けたものが団体交渉に臨む。UIゼンセン同盟の中央闘争委員会が設定した日程に合わせて交渉を行い、連帯を強化することとした。

セミナー

賃金引き上げは最大の成長戦略

富士通総研経済研究所 エグゼクティブ・フェロー 根津 利三郎 氏

日本経済はリーマンショック後落ち込んだが、今年は悪いばかりではない。外需に振り回されているが、内需によって成長を高めるため、新しい産業が必要である。

日本はデフレ（物価が下がり続けること）の状況が10年も続いている。デフレだから円高になり、賃金が下がっているからデフレになっている。デフレ、金が上がっている時に円高、賃金下落の悪循環が日本経済を悪くしている。止まらないデフレと賃金低迷のスパイラルを断ち切るためにも今年、賃金を引き上げるべきだ。

特に日本のサービス価格の低迷が顕著である。サービスの価格は従事する人達の賃金に連動する。労働生産性の上昇率に賃金上昇率が追いついていない。日本の賃金（製造業）は先進国では一番低い。賃金を上げても雇用は減らない。所得が上がると需要が増える。賃金が上がっている時に雇用も増える。うつ病は賃金の低い会社の方が発生率が高いというデーターもある。企業貯蓄が急増し、勤労者世帯貯蓄は下がっている。労使で満足できる賃金を協議することが求められている。

毎年生産労働人口は67万人減り、65歳以上は53万人増え、14歳以下は28万人ずつ減る。ワーク・ライフ・バランスの実現、人材育成＝労働市場改革など日本の企業経営の課題は働き方の変革である。（要旨）

第1号議案　意見（要旨）

山本中央委員

意見（山本政夫中央委員＝東京応化工業労組）障がい者雇用の促進について、障がい者が働きやすい環境は健常者にとっても働きやすい環境になる。労働安全やゼロ災害につながると思うので、引き続きプラスアルファのものも含めて取り組みをお願いしたい。

第7回「機関紙・誌コンクール」を開催

UIゼンセン同盟はことしも組織強化活動の一環として、機関紙・誌コンクールを実施します。労働組合にとって情報を伝えることは重要な活動です。機関紙・誌を発行していない組合はこの機会に発行しましょう。

▽**目的**＝①組合員にわかりやすく組合活動を伝え、参加を促す機関紙・誌を表彰する②機関紙・誌を未発行の組合が発行する機会とする。

▽**募集作品**＝①機関紙（WEB含む）②機関誌③かべ新聞

▽**対象期間**＝昨年の6月1日からことしの5月31日までの1年間に発行したもののうちから1部（新年号や議案特集号などは避けて、通常号での応募を）

▽**応募方法**＝作品に応募用紙を添付して郵送（応募用紙はUIゼンセン同盟ホームページに掲載）

▽送付先＝UIゼンセン同盟広報・情報企画局「機関紙・誌コンクール」係（〒102―0074東京都千代田区九段南4―8―16、電話03―3288―3566）。

▽**受付期間**＝6月13日（月）まで

▽**審査**＝2011年7月

▽**入賞**＝最優秀賞1点（10万円）（全体から）、優秀賞は①機関紙（WEB含む）②機関誌③かべ新聞からそれぞれ1点（各3万円）、佳作5点（各1万円）（全体から）、創刊賞（この機会に機関紙・誌を創刊した組合を対象）

議案

第2号議案 2011～2012年度 年間総実労働時間短縮方針について

2011年労働条件闘争開始にあたり報告・提案内容を真剣に聞き入る中央委員

第2号議案「2011～2012年度年間総実労働時間短縮方針」は田村雅宣副書記長が提案、質問・意見なく満場一致で決定した。

田村副書記長は「労働時間を短縮する運動は通年にわたって息長くやらなければならない運動」と語り「労働者がワーク・ライフ・バランスを実感できる人生は当然ながら、やむを得ず特別延長条項を締結する場合は、必ず所属部会・都道府県支部に報告することを求めた。さらに、不払い（サービス）残業は法律違反であり、時期を待たずに取り組んでほしいと訴えた。

田村副書記長

運動の進め方は部会ごとに設定することとした。

2011年は、まず年間総実労働時間を把握し、労使共通の認識に立ち短縮に取り組むこととした。

そして①2013年3月末日までに、年間所定労働時間2000時間以上の組合をなくす②2013年3月末日までに、平均年間総実労働時間を1900時間未満とする。

取り組みとして、すべての組合が年間総実労働時間の実態を把握し、各項目の実態平均を所属部会・都道府県支部に報告する運動を行う。

36協定の締結と周知義務の徹底（法律遵守）は当然ながら、やむを得ず特別延長条項を締結する場合は、必ず所属部会・都道府県支部に報告することを求めた。さらに、不払い（サービス）残業は法律違反であり、時期を待たずに取り組んでほしいと訴えた。

運動の進め方は部会ごとに設定することとした。

短時間組合員については、合理的理由のない正社員との格差は解消することを基本原則に、実態を踏まえて要求を組み立てることとした。

第3号議案 2011年期末一時金闘争方針について

斗内常執

第3号議案「2011年期末一時金闘争方針」は斗内利夫常任中央執行委員が提案、質問・意見なく満場一致で決定した。

斗内常執は、期末一時金は従来どおり毎月の必要生計費を補てんする「季節賃金」と期間業績に対する「成果配分」の合算で、季節賃金部分4カ月を確保したうえで年間協定組合は4・8カ月、各期別要求の組合は2・4カ月ずつとする基準を業年金制度への移行（維持）を求めていく。

闘争の進め方については中央執行委員会の指導にもとづき、各部会間の連携を密にして闘いを展開、要求書提出、解決目標は部会・業種ごとに決定することとした。

第4号議案 2011～2012年度 退職金改定闘争方針について

第4号議案「2011～2012年度退職金改定闘争方針」は斗内利夫常任中央執行委員が提案、質問・意見なく満場一致で決定した。

斗内常執は要求について、安定的な老後（退職後）生活を実現しうる水準の確保を目標に、社会水準、加盟組合の現行水準、賃金改定率、物価上昇率などの状況を勘案し、基準を設定すると提案。短時間組合員等についても制度確立へ向けて積極的に取り組むこととした。

要求基準は正社員（高卒者）勤続30年定年退職金1600万円を基準、勤続35年定年退職金1990万円を基準とした。

また、年金資産の運用リスクを全面的に従業員に負わせる確定拠出型年金制度の導入にあたっては、UIゼンセン同盟に報告するとともに、制度全体の中で一部（3分の1程度）の導入にとどめるなど慎重な検討が必要であると、注意を促した。

退職金制度の整備などについては算定方法の検証・見直しを行うとともに、保全措置の点検も行うこととする。企業年金制度の一つである税制適格退職年金制度が、2012年3月末で事実上廃止されるので最低限、企

緊急提案 専門店ユニオン連合会 AOKIグループユニオン支援決議

壇上に流通部会選出の役員が揃うなか、水本中央委員（顔写真）が支援決議を提案した

第5号議案終了後、中央委員有志を代表して水本勝中央委員（上新電機労組書記長）が組合脱退強要による組合つぶしに遭っているAOKIグループユニオンに対する支援決議を緊急提案し、満場の拍手で承認された。

水本中央委員は「会社が不当労働行為を認めて謝罪し、激減した組合員の原状回復、健全な労使関係の構築へ向けて誠実な対応を行うまで総力をあげて支援する」と力強く表明した。長期化が予想されるなか、UIゼンセン同盟全体として支援カンパ活動に取り組むよう要請した。

柴山敏郎AOKIグループユニオン委員長の御礼・決意表明

温かい支援決議に厚く御礼申し上げます。

私達は5年前に組合を結成、380名の仲間（オープンショップ）で活動を始めました。

組合員が過半数を超えるように、全国500店舗でオルグ活動を進め、昨春、1700名とようやく全体で過半数達成という矢先に会社による組合つぶしが始まりました。

抗議行動を展開していますが、会社は不誠実な態度を取り続けています。私達は会社に過ちを認めさせ、健全な会社にするまで闘い抜きます。

第5号議案 特別中央執行委員の補充について

第5号議案「特別中央執行委員の補充」は、落合会長が提案し、満場の拍手で承認された。任期は前任者の残任期間。

〈特別中央執行委員（非企業別労働組合代表）〉緒方裕司さん＝人材サービスゼネラルユニオン・会長、（顔写真）

第6号議案 第17回統一地方選挙必勝決議

第6号議案「第17回統一地方選挙必勝決議」は、沖田政憲副会長（顔写真）が提案し、満場の拍手で承認された。我々の代表である、組織内・準組織内議員全員の必勝へ向け全力をあげて戦うことを確認した。

見事な議事進行

議長団

挨拶をする伊藤さん（右）と村中さん

中央委員会議長団は働組合（地方部会）の伊藤優歌さん、副議長としてクラレグループ労働組合連合会（化学部会）の村中雅浩さんが務め、見事な議事進行を行った。

平和祈念の詩贈る

核禁会議結成50周年

詩を朗読する秋元かおる副書記長

核兵器禁止平和建設国民会議（核禁会議）の結成50周年記念式典が、1月28日、東京・港区で開催された。核禁会議は、①核兵器廃絶②被爆者支援③原子力の平和利用を目的に結成され、50周年にあたり、UIゼンセン同盟の文化集団の一つである詩人集団は、12編の「平和祈念の詩」を寄贈（『Yuai』2月号に掲載）。記念式典では、このなかから1編の詩をUIゼンセン同盟秋元かおる副書記長が朗読し、世界平和の実現を祈るとともに、運動の一層の推進を確認しあった。

機関誌『Yuai』職場に1冊運動

『Yuai』を読んでいる職場の仲間 写真とコメント大募集

2月28日必着

機関誌『Yuai』は、UIゼンセン同盟の活動を分かりやすく伝えるとともに加盟組合・組合員の仲間意識をはぐくみ、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を応援することを目的に毎月発行しています。ことしも3～5月を購読拡大強化月間として「職場に1冊」運動を展開します。そこで皆さんの職場ではどのように『Yuai』誌を購読・活用しているか、写真を添えて紹介してください。

募集要領

①写真とコメント（字数は自由。できるだけくわしくお書きください）②氏名③組合名（支部・分会名）④勤務先住所⑤電話番号を明記し、郵便またはメールでお送りください。しめきり2月28日。編集部で選考のうえ、10名（10職場）に賞金1万円を贈呈します。＜応募先＞UIゼンセン同盟広報・情報企画局　〒102－0074　東京都千代田区九段南4－8－16　電話03－3288－3566。ファクス03－3288－3727。

▷E-mail：kojyoho-kikaku@uizensen.or.jp

※メールで応募する場合、自宅のパソコンは避けてください（セキュリティ上削除される可能性があります）。応募いただいた個人情報は、上記目的以外に使用しません。

家庭に〝小さなお宝〟はありませんか？

書き損じハガキ、切手、
テレカ、音楽ＣＤ、金券など

2011年家庭に眠る小さなお宝キャンペーン 受付中

ＵＩゼンセン同盟は現在、家庭に眠っている価値あるグッズを開発途上国の人々の支援に役立てるリサイクル活動を行っています。集まったグッズは３つのＮＧＯ・ＮＰＯ（非政府・非営利組織）に贈呈、換金されて海外プロジェクトや活動資金として活用されています。ご協力をお願いします。

ブルキナファソ「井戸の修繕できれいな水を」（ハンガー・フリー・ワールド）

小さなお宝（集めるもの）は、書き損じ・未使用はがきや未使用・使用済み切手、未使用テレフォンカードなど具体的に別表のとおりです。

集まったお宝の贈呈先は、ハンガー・フリー・ワールド（飢餓や貧困のない世界をつくることを目的に日本、バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダで活動している国際協力ＮＧＯ）、シャプラニール（バングラデシュおよびネパールの貧困層の人々や路上で暮らすストリートチルドレン等を支援する国際協力ＮＧＯ）およびシェア（アジアやアフリカで健康改善やエイズの予防啓発、ＨＩＶ陽性者支援活動を行う国際保健ＮＧＯ）の3つのＮＧＯ・ＮＰＯ団体です。（2010年度のお宝換金合計額は232万1164円）

キャンペーン期間は2011年1月〜3月末です。詳細については、組合へお問い合わせください。身近にできるボランティア活動として、ご協力をお願いします。

小さなお宝とは…

	品名・集めるもの	お願い
1	**書き損じ・未使用はがき**（官製はがき）	
2	**未使用切手**（日本切手）	
3	**使用済み切手**（日本切手・海外切手）	切手の周囲を５㎜以上残して切る。日本と海外の切手を分けて集計する
4	**未使用カード**（テレホンカード、ＩＣカード、イオカード、オレンジカード、ハイウェーカード、パスネット、クオカード、ふみカード）	使用途中、図書カード、定期券、回数券、バスカード、テレビカードなどは不可
5	**音楽ＣＤ**（アルバムのみ）、**ＤＶＤ、ゲームソフト**	ケース、歌詞カード、取扱説明書付きのあるもの。カセットテープは不可
7	**金券**（商品券・ギフトカード・図書券・ビール券・酒券）	地域限定の金券は不可
8	**使用済みディズニーパスポート**	
9	**ゲーム機器**（すべてのパーツが揃っている）	汚れや破損のあるものは不可

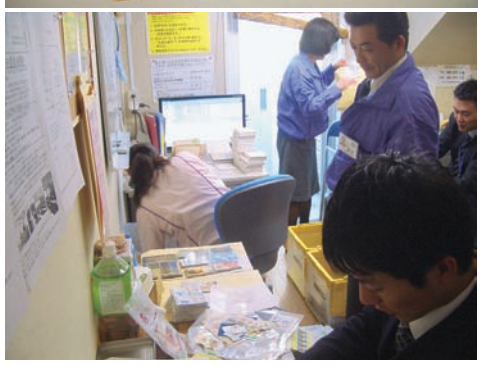
※大切なお宝ですので、汚れはふき取ってください。

仲間の善意に感動

取り組み事例報告

クリエイトエス・ディーユニオン

私達のボランティア活動



集められたお宝の一部（上）と組合事務所で仕分け・搬出作業を行う執行部の仲間達

クリエイトエス・ディーユニオン（流通業種、神奈川、1300名）は2009年12月に結成し部会・ドラッグストア部会の2010年2月末から家庭に眠る小さなお宝キャンペーンの取り組みを展開し、1カ月余りという短かい期間で大きな成果をあげた（お宝換金合計21万7373円）。「だれもが身近にできる活動であり、また〝人と人とのつながり、絆〟を大切にする労働組合の意義や力を発揮する良い機会だと思いました。とは言うものの、まったく初めての活動であり、手探り状態からのスタートでした」と瀧屋幸彦委員長は振り返る。

◇

職場委員や組合ニュース等を通じて、仲間達へ協力を呼び掛けた。〝本当に集まるのだろうか〟と不安があったが、それはすぐに杞憂（きゆう）に終った。

取り組みを始めるや否や「これならば私にも簡単に協力できる」「友人にも声を掛けたい」など、多くの仲間達から賛同の声が組合に寄せられた。そして、〝善意の輪〟は組合員のみならず、パートナーさん（パート）等の仲間達へ広まっていった。「皆さんの温かい心にとても感謝しています。また、この活動を通じて、多くの仲間達に労働組合の活動に関心を持ってもらうことができました」と望月康博書記長は喜びを隠さない。

組合事務所に〝所狭し〟と集められたお宝は、執行部8名の手により一つひとつ丁寧に仕分け・搬出作業が施された。「まさに〝嬉しい悲鳴〟でした。執行部一同、皆さんの善意に〝感動〟しながら作業を進めました」と、福祉対策部の山﨑芳美さんは笑顔で話してくれた。多くのお宝を前にして、一生懸命に心地良い汗を流している姿が目に浮かんでくる。

その後も仲間達の関心は高く、「次回の取り組みはいつ頃なのか」などの問い合わせが続いたという。気軽にボランティア活動に携わる良いきっかけとなったことであろう。

現在、福祉対策部を中心に2011年度の活動を展開している。支部長会議で活動を徹底するなど、取り組みに一層熱が入る。「組合活動もボランティア活動も、より多くの仲間達が携わることが大切です。今後も、仲間達がさまざまな活動に参加しやすい環境づくりを進めていきたい」と瀧屋委員長は思いを込める。

今年も、まもなく組合事務所で〝嬉しい悲鳴〟が上がることであろう。

「2011統一賃上げ闘争」「ワーク・ライフ・バランス」標語優秀作品

2011統一賃上げ闘争、ワーク・ライフ・バランスの標語およびイラストには、42組合969名の応募をいただきました。

内訳は、2011統一賃上げ闘争標語で692点、イラスト４点、ワーク・ライフ・バランス標語で849点、イラスト12点の計1557点でした。

この中から各部門３点の優秀作品を決定しました。運動を盛り上げるために、ぜひご活用ください。

「2011統一賃上げ闘争」

◇賃上げで 変わるくらしと 日本の景気

カネボウ労働組合高岡支部　赤木　元貴

◇賃上げで 守ろう職場と 我が家庭

ダイエーユニオン　江坂事務所支部　辰己　照実

◇持っている！ 組合・団結 大きな力

ダイエーユニオン　ショッパーズプラザ新浦安店支部　柏木　伸子

「ワーク・ライフ・バランス」

◇お休みを しっかり取って よい仕事

すかいらーくグループ労連　すかいらーく労働組合第一営業本部支部　畑岡　学

◇ノー残業 大切なのは 変える意思

すかいらーくグループ労連　ニラックス労働組合　高橋　誠樹

◇記念日に 休める会社 いい会社

ダイエーユニオン　池田駅前店支部　香西　万璃